特定非営利活動法人(NPO 法人)

アダージョちくさ

就労継続支援B型事業所
ワークルーム・ぐるっぺ

ご案内

施設紹介

ぐるっぺとは？

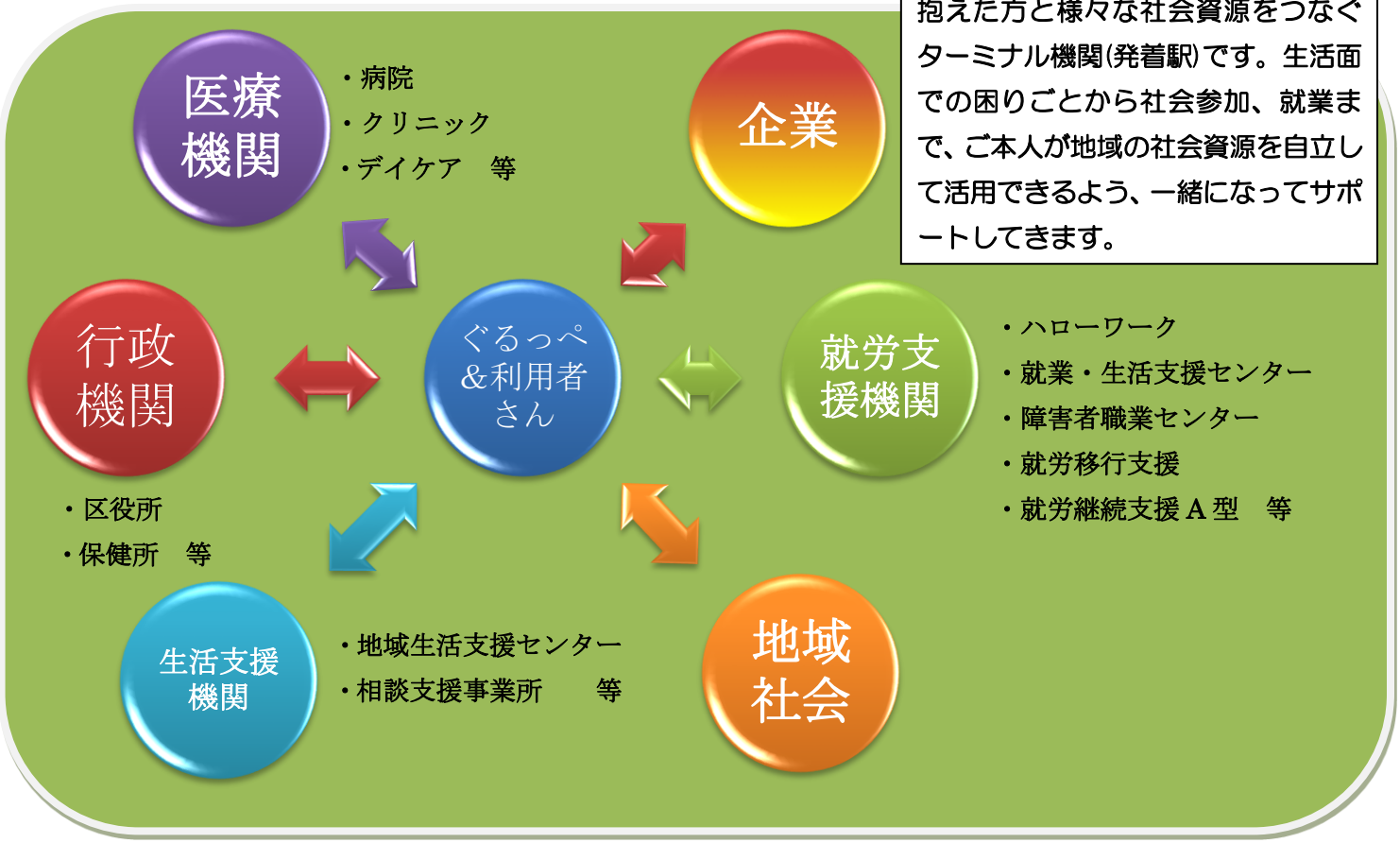
「ワークルーム・ぐるっぺ」は、主にうつ病や統合失調症といった精神疾患・精神障害にかかわる社会的課題を解決し、障害のある人もない人も誰もが地域で安心して暮らせる社会を築いていくことを目的としています。具体的には以下の二つの活動に分かれています。

1. 精神障害を持つ方に日中通所していただき、病気や障害に対する正しい知識や対応法の伝達、相談支援、日常生活支援、職業訓練、就職支援、等を行いご本人の自立生活をサポートします。

2. 精神疾患や精神障害に対する情報、ストレスの対処法に関する技術の伝達などをお伝えすることで、地域のメンタルヘルスに貢献します。

ぐるっぺの役割

ワークルーム・ぐるっぺは、心の病を抱えた方と様々な社会資源をつなぐターミナル機関(発着駅)です。生活面での困りごとから社会参加、就業まで、ご本人が地域の社会資源を自立して活用できるよう、一緒になってサポートしてきます。



施設長挨拶

富田　倫弘

2005 年４月

日本福祉大学社会福祉学部卒業後、当事業所に入職。

・精神保健福祉士
・社会福祉士
・介護福祉士

高度経済成長以来、日本は先進国となり物質的に豊かになり、平和で住みやすい国となっているように思われます。しかしながら2011年の経済協力開発機構(OECD)による「国民の幸福度調査」では３６ヶ国中 21 位と低く、また平成 10 年以降、年間の自殺者数は３万人を超え、仕事や家庭問題、人間関係などの軋轢の末に命を絶つ方は減ることがありません。今なお社会問題となっている引きこもりやうつ病などの精神疾患に罹患する方もまた増加の一途を辿っており、2011 年７月にはついに厚生労働省が「ガン」「脳卒中」「急性心筋梗塞」「糖尿病」の４大疾病に続き「精神疾患」を「5 大疾病」として位置づけました。

このように、精神疾患・精神障害は今や誰もが罹る可能性のあるものであり、今まさに心の健康を考える時代となっています。精神障害者の方は生真面目で責任感が強く、それ故に他人に気を使い過ぎて疲れてしまう・・・そのような優しさを持つ方が多いと私自身、皆さんと接する中で実感しています。

そしてまた彼らは、その優しさ故に社会の一員として世間の役に立ちたい、誰かの役に立ちたいとも願っています。ワークルームぐるっぺでは、心の病を抱えた方々と一緒に地域の役に立つ仕事を探し、地域の皆様との相互扶助の関係を模索していきます。

施設沿革

●1986 年 4 月　保健所、地域医療機関、精神障害者家族等を中心として、千種区高見 1 丁目にて民間の精神障害者小規模作業所として活動開始。

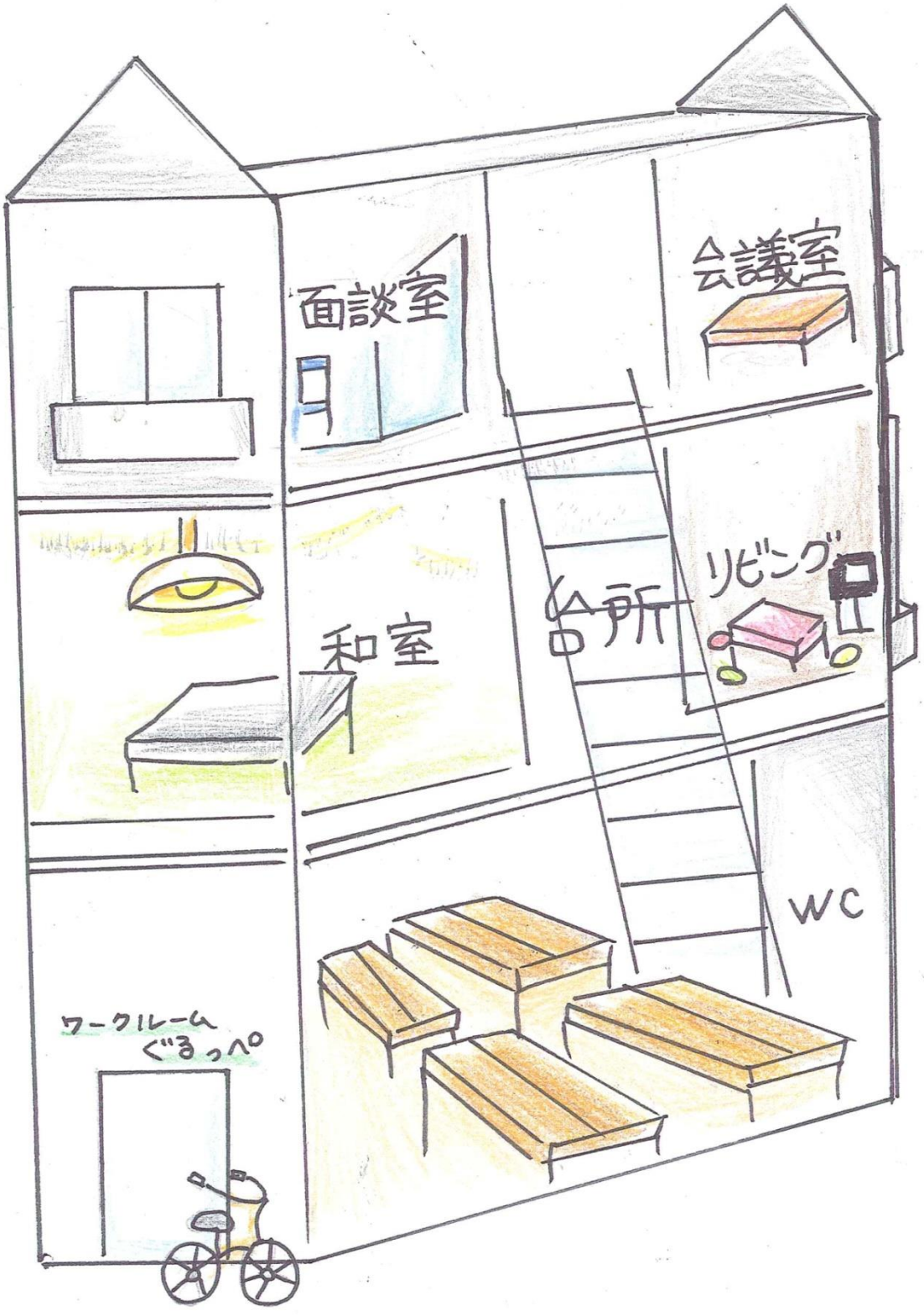
●2008 年 4 月　同じく千種区赤坂町に 1992 年より開所した精神障害者小規模作業所「工房さんりん舎」と共に特定非営利活動法人格を取得。

●2008 年より　毎年一回、保健所、区役所、社会福祉協議会等の協力を得て、地域の方へ向けた「精神保健福祉講演会」を開催。

●2012 年８月　施設拡大のため千種区仲田 1 丁目に移転。

●2012 年１２月　障害者自立支援法に規定された就労継続支援Ｂ型事業所へ移行。

事業所紹介



3F

2F

1F

☆1F　作業室

天井が高く設定されているため圧迫感が少なく、フローリングとテーブルをナチュラル調で統一しているため、落ち着いた雰囲気で作業をすることができます。

☆2F　リビング（多目的室）

主にみんなで昼食を食べる部屋です。みなで食事を作り、テーブルを囲んでの食事は一家団欒の気分を味わえます。

☆2F　和室（静養室）

新しい畳の匂いが穏やかな雰囲気を誘います。調子が悪くなった時は布団を敷いてゆっくりと横になることが出来ます。

☆3F　面談室

作業を行う 1F から離れているため、静かな空間でゆっくりと話をすることが出来ます。

☆3F　会議室（多目的室）

会議だけでなく、様々な目的に活用できます。奥には広いベランダもあり植物を育てることなども出来ます。

訓練内容

作業訓練

主に内職活動を中心として仕事に従事するための集中力や忍耐力を鍛えることや、新規利用者の方に作業のやり方を教えること等を通し、他者との協働作業に必要な協調性や指導力等を養います。

◆割り箸の袋詰め◆

◆マスクパック詰め◆

◆アカパックン(風呂垢取)包装◆

職業訓練

就労のための模擬訓練として、実際に職場でアルバイトを行う機会を提供します。スタッフも一緒に仕事を行うことで、本人の長所や短所、得意な分野や弱点分析などを行い、能力向上の指導等を行います。

◆出張コンビニサービス（独居高齢者宅の草むしりなどの有償ボランティア）◆

◆提携企業でのアルバイト体験◆

自主製品製作

粘土で携帯ストラップを作るなど、手工芸品の自主製品を製作販売を行っています。内職作業と同じく指先のリハビリ等の訓練でもあり、出来た商品を地域のお祭りやバザーで販売するなどして自分でお金を稼ぐなど、経済的自立を促す職業訓練としての意味合いも持ちます。

◆キーホルダー◆

◆スイーツ携帯ストラップ◆

販売・接客

地域のお祭りでの模擬店出店や障害者バザーイベントでの自主製品販売など、様々なイベントへ出店し、接客による対人不安の克服や、お金の価値観等を学びます。

個人が趣味で作った作品なども、希望があれば同時に出品します。自分が作ったものが世の中に商品として売れていく、他人がお金を出して買っていってくれるという喜びから、新たな生きがいを見つけきっかけになることもあるでしょう。

◆仲田夏まつりでのバザー出店◆

◆区民祭りでの模擬店出店◆

生活支援・地域交流

生活上の様々な不安や悩みに対して、本人が自分で解決できるように側面的支援を行っていきます。また、様々なレクリエーションを体験することにより、新しいことにチャレンジする不安に慣れ、また生活に張り合いを持つための趣味などを見つけていただけるよう支援します。

生活訓練

◆調理実習◆

◆ハウスクリーニング会社を招いての掃除教室◆

余暇支援

◆障害者スポーツセンターでの体力づくり◆

◆みんなで協力してのお菓子づくり◆

その他

◆面談・履歴書作成指導等、相談支援◆

◆管理栄養士考案の日替わり昼食
提供による健康管理(1食100円！)◆

社会参加活動

精神保健福祉講演会

ストレス対処の方法、精神障害の方との接し方やうつ病に対する理解を深めてもらうための自殺予防など、広くこころの病とその予防等についての知識や技術を、講演会や様々なイベントを通して社会に対して普及啓発していき、傷害の有無による差別や偏見を無くし、地域に住むすべての人々が互いに助け合い心穏やかに過ごせるよう普及啓発を行っています。

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度(予定)
テーマ 「私たちの日常～作業所ってこんなところです～」	テーマ「『うつ病』の増加と変化について～その傾向と対策～」 講師：高木　宏 Dr （県立城山病院精神保健指定医）	テーマ「メンタルヘルスの基礎知識 ～ストレス社会を健康に生きるコツ～」 講師：富田　美佐緒　氏 カウンセリングオフィスうらら代表

地域交流・社会貢献

地域の一員として社会貢献活動を行うことで、「自分たちが社会の役に立てることがあるんだ」「他者から必要とされている」という自尊心の回復と自信の向上を図ります。

◆千種公園ユリの球根植えボランティアへの参加◆

◆花☆花ふれあいまつり(乗西寺)への参加・協力◆

利用者さんの声

A さん（40 代男性）

僕は毎朝時間どおりにキッチリと事業所へ行くのが難しくて続かなかったので
ここで毎日決められた時間にキッチリ通所できるように訓練しています。
ここに来てからは、調子が悪くて外に出られなくなってしまう時期が大丈夫になったり、バザーなどに参加することで人ごみに慣れてきたりと良い訓練になっています。

初めは「寝過ごしたら」と思って夜中で一睡もしないで作業所へ来たりしていたり
他人と話をする時に緊張して言葉がつまってしまったりも。
ここに来てからは、他人と喋る時に緊張する事も少なくなったり
大勢の人がいる所に行っても調子が悪くなる事が
少なくなりました。

B さん（30 代男性）

C さん（30 代女性）

私は薬の副作用などもあり朝起きてはいるのですが
お昼前までは身体がおっくうで外出などが辛いです。
将来就職するためには、毎朝決まった時間に出勤しなければならないので、ここへ昼前から自分のペースで通所して訓練をしています。
1年ほど通って除々に朝起きる時間と通所できる日にちが増えてきました。

D さん（60 代男性）

ここへ通ってきて明るくなったような気がする。お金のやりくりもできるようになったし。

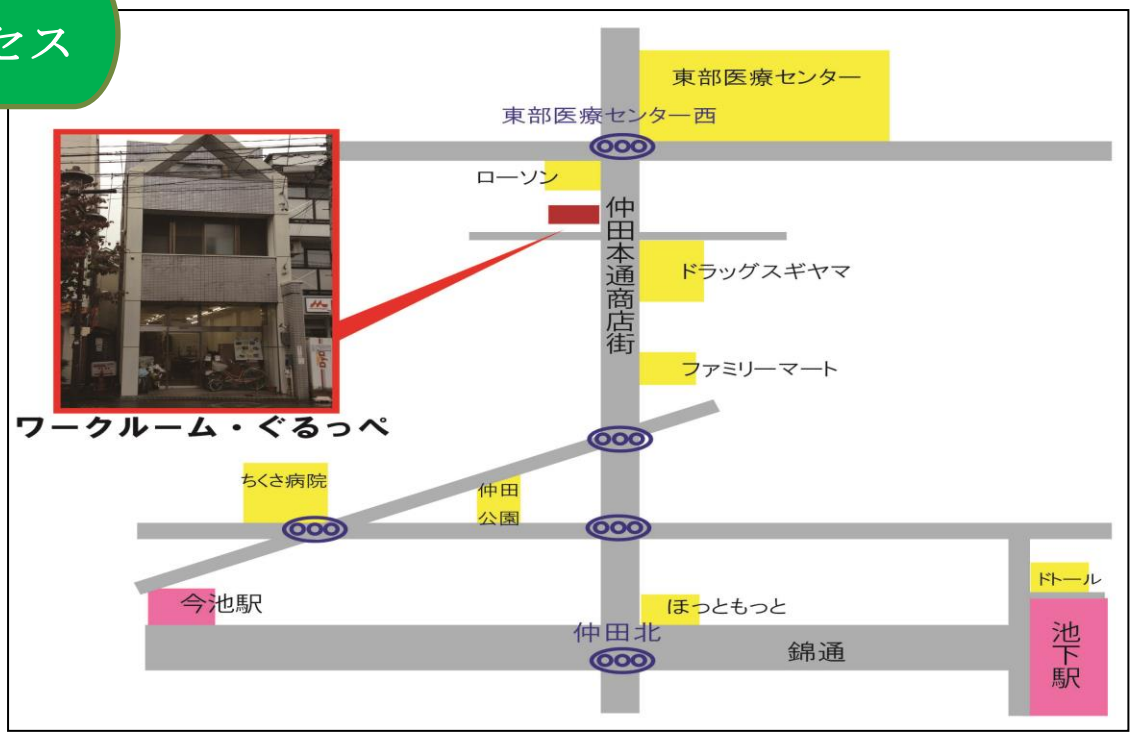
ぐるっぺをやめてしまうと平日がヒマになってだらけてしまうから調子が悪くなってしまう。その防止と同じ病気の仲間がいることで疲れはしない。幻聴のひんどもへって今までは、電車をとちゅうで下りなければいけなかったけどそれもへってきました。

E さん（50 代男性）

F さん（60 代女性）

今年の9月1日で、ぐるっぺへ通所して7年目になります。私も今年で、60才になります。4年4ヶ月ほど前の母の死はショックでした。ぐるっぺにまた行こうと思えたので乗り切れてきたように思います。[redacted]さん[redacted]さん[redacted]さんという先輩に、安い言葉をかけていただき、ありがたかったです。

アクセス



市バス

- 市バス「東部医療センター」前下車　徒歩約２分

（東区、北区方面より）地下鉄、JR 大曽根駅及び地下鉄砂田橋駅より

「東巡回系統」　乗車約 15 分

（守山区方面より）「幹砂田１系統」　池下行　乗車約 30～40 分

池下駅下車から　徒歩約 10 分

名古屋市営地下鉄

- 「今池」駅及び「池下」駅下車　徒歩約 10 分

（名古屋市市営地下鉄桜通線、及び東山線）

就労継続支援Ｂ型事業所

ワークルーム・ぐるっぺ

〒463-0073 名古屋市千種区仲田１丁目９番 12 号

TEL・FAX　052-731-3070

e-mail　workroom.gruppe@gmail.com

ＵＲＬ　https://adagiochikusa.wixsite.com/gruppe